

世田谷まちづくりファンド助成事業 第19回(2011年度)審査コメント

影山知明

○ 全体講評

まちづくりファンドからの助成を受けるということは、最終的な資金拠出者たる区民に対し、その活動の意義や成果をどう説明できるのかが問われることになると思います。その点で、やや内輪な活動提案が多かったり、勉強会やワークショップの実施といった実体的な成果手前の活動提案が多かったように感じられ残念でした。

また2~3年目の申請団体のうち、助成期間終了後の財源見通しが描けていないものが多かったように思います。目の前の活動だけでなく経営/マネジメントにも意識を持ち、事業収入・会費・寄付等の組み合わせで活動を持続化させるようなモデル提案を期待したいと思います。

○ はじめの一步部門

子どもでつながるハートクラブ

勉強会・講演会に続く、具体的な課題解決に向けての挑戦に期待したいと思います。

あかねこうぼう

さらなる参加者の広がり、期待したいと思います。

トランジション世田谷

「電気は消費するだけでなく生産できるもの」、共感します。次のステップとして仕組みを考えられるといいですね。

在宅チーム医療を考える会

何をされたいのか、資料からはよく分かりませんでした。

どんどんガガガ隊

なぜこの活動であって、他ではないのかをもう少し伺ってみたいと思いました。

フレンドリーグループ

花づくりに参加する人にとどまらない関係性の広がりが生まれればいいなと思いました。

○ まちづくり部門

パーマカルチャーガーデン世田谷

具体的な場を持ち、地道な活動を実際に始めていることにとっても好感を持ちました。「ためき村」というネーミングもとてもいいと思います。敷地外の外部ともつながっていけるといいですね。

からすやま地域の力を集める会

ワークショップの次のステップの活動イメージが聞きたかったです。

きっかけファクトリー

定量的な分析を含め問題の構造を捉えられていること、展開のステップを描けていること、事業化を見据えられていることに好感を持ちました。実際の場所の確保など課題も多いと思いますが、小さくともまず最初の実績づくり、期待したいと思います。

玉川にエコタウンをつくる会

今後のまちづくりの方向に影響を与えるととても大事な時期だと思いますし、目指される方向性にも共感しますが、どう実現していくのかの手順が残念ながらイメージできませんでした。

働きたいママの応援 café

働きたいが働けないのはなぜなのか、その原因をどう解決するのか、どうやって雇用が創出されるのか、課題の分析をきちんとお伺いしたく思いました。

千歳小おやじの会

地道な活動で成果を出していらっしゃる、またファンド申請に当たっての資金使途も明確、またファンドに頼らない運営を模索される姿勢も素晴らしいなと思いました。

街づくりの仲間たち

お金をかけなくてもできる活動であるように思いました。どのような成果につながるのかイメージできませんでした。

こころからだ Selfeel

“どこでも行きます”というメッセージに「本気」を感じました。営利事業ではなくボランティアと吹っ切ることで、むしろ可能性が拓けるようにも思いました。

Welcome Ch

もっとフットワーク軽く、機動的に多くのコンテンツを制作できるように思った。

フラワーランド園芸ミニデイ

施設の人たちを巻き込みながら確実に継続している様子がとてもいいなと思いました。お金のかからない花壇とすべく、育苗等にも取り組んでいらっしゃる点も好感を持ちました。

東京グリーンプロジェクト

小学生のリーダー、保護者のリーダーが育ち、徐々にオーナーシップを移していけるといいですね。

放課後あそび舎

一年前の計画通りに活動を実現されている様子が素晴らしいなと思いました。団体同士の交流も生まれ、広がりが出てきているのを感じます。ともに取り組めるスタッフが充実してくるといいですね。

野川の多自然川づくりを考える連絡会

専門的であり、小さくとも具体的な成果に結びついている点に好感を持ちました。単に反対するだけでない建設的な提案に、実現可能性を感じました。

SAN

助成期間が終わったらどうされるのかが気になりました。活動の性格的には参加者、参加団体からの会費でまかなってもいいように思いましたがいかがでしょうか。

蘆花公園しあわせの野音の会

申請最終年として自力運営への見通しを聞きたかったです。サポーターを募るのはとてもいいと思いますが、お客さんとしてでなく、ともに作り出す仲間としてコミュニティを形成できるかどうか鍵であるように思います。

豪徳寺駅周辺風景づくりの会

ワークショップを経て、それがどういう具体的な成果に結びつくのか、活動の実効性に疑問を感じました。標識版や掲示板を設置できる実現可能性が気になりました。

岡さんのいえ TOMO

地道な活動を続けていらっしゃると思います。ただ自力運営に向けての展望では苦戦されているようですね。「閉鎖」「最低限の活動」などの表現が出てくるのが残念に思います。

組織化をして会費を取るなどの方策は難しいでしょうか。

わいわいコミュニティ・たまがわ

24回の「ゆったりカフェ」開催、12回の「わいコム」発行など、有言実行な活動ぶりに感心しました。事業プランニングの過程に巻き込むことで、それまでの参加者を運営者へと引き込んでいった手立てはお見事と思います。